

臨床薬理学

単位数（時間数）：1 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・三浦靖彦

科目担当者（職位・氏名）：

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：36

■ 授業概要

薬物の体内動態や薬理作用・副作用に関する知識、健康回復過程における様々な薬物療法とともに、薬物療養中の患者支援や服薬指導に関する基本的知識を教授する。さらに小児・妊婦・授乳婦・高齢者などの特殊な身体状況にある患者への安全な薬物の投与方法や危険性、法令に基づく薬物の管理方法について教示する。

■ 到達目標

1. 医薬品の作用に関する特徴、体内動態とその影響、適正な使用について理解し説明できる。
2. 主な疾患の原因と症状を学び、使用する薬物の有効性と重篤な有害反応の症状を理解する。
3. 薬物療法における患者の安全面、看護における注意点を理解する。

■ 教育内容

人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進

■ キーワード

医薬品、生活習慣病、がん・痛み、脳・中枢神経系疾患、感染症、救急救命時、アレルギー・免疫不全状態、消化器系疾患など。教科書の各章のはじめにある Keyword を参照。

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	医薬品総論	医薬品、関連する法律、作用原理とその影響、薬物動態と有害作用、適正な使用 講義	三浦
2	主な生活習慣病に使用する薬①	生活習慣病とは、生活習慣病と薬物療法 講義 課題問題	三浦
3	主な生活習慣病に使用する薬②	生活習慣病に伴う循環器障害と薬物療法、生活習慣病に伴う脳血管障害（急性期）と薬物療法 講義 課題問題	三浦
4	がん・痛みに使用する薬①	がんの薬物療法 講義 課題問題	三浦
5	がん・痛みに使用する薬②	抗がん薬の有害作用その対策、がん性疼痛に使用する薬 講義 課題問題	三浦
6	脳・中枢神経系疾患で使用する薬①	中枢神経系の働きと薬、抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、アルツハイマー型認知症治療薬 講義 課題問題	三浦
7	脳・中枢神経系疾患で使用する薬②	精神疾患に用いる薬（向精神薬） 講義 課題問題	三浦
8	感染症に使用する薬	感性症、細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症、寄生虫感染症、消毒薬、予防接種薬 講義 課題問題	三浦
9	救急救命時に使用する薬	医薬品投与に関連する緊急状態、ショックに使用する薬、医薬品中毒の治療に使用する薬、救急カートに必要な薬、血液製剤 講義 課題問題	三浦
10	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬①	気管支喘息と薬物療法、呼吸器疾患に使用する薬 講義 課題問題	三浦
11	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬②	関節リウマチと薬物療法、全身性エリトマトーデスの薬物療法 講義 課題問題	三浦

12	消化器系疾患に使用する薬①	消化器系疾患に使用する薬の分類と特徴： 消化性潰瘍治療薬、健胃消化薬、制吐薬、 鎮吐薬 講義 課題問題	三浦
13	消化器系疾患に使用する薬②	消化器系疾患に使用する薬の分類と特徴： 胃腸機能調整薬、瀉下薬、止瀉薬、腸疾患 治療薬、肝臓・胆嚢・膵臓の疾患に使用す る薬 講義 課題問題	三浦
14	その他の症状に使用する薬①	代謝機能障害、内分泌障害、血液・造血器 障害、腎機能障害、運動機能障害、性・生 殖と泌尿器・生殖腺機能障害 講義 課題 問題	三浦
15	その他の症状に使用する薬②	皮膚障害、視覚障害、痛みに使用する薬、 水分・電解質・カロリー不足 講義	三浦

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

期末試験 70%、課題問題の学習内容 15%、課題レポート 15%で評価する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・ 毎回、出題される課題問題は事前学習した内容を用紙に記入し、次回の授業時に解説及び解答を聞いて加筆や確認を行った後、提出する。
- ・ 課題レポートは、コメントをつけてフィードバックする。

■ 教科書

- ・ 『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
疾病の成り立ち ② 臨床薬理学

■ 参考書・参考資料等

- ・ 町谷安紀著（2020）『イラストで理解するかみくだき薬理学 改訂2版』南山堂
- ・ 柳澤輝行、小橋史著（2019）『休み時間のワークブック 薬理学』講談社

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・ 事前の準備学修に、毎回の課題問題の解答及び解説を約 50 分程度必要とする。
- ・ 事後の学修に、資料の読み返しや空欄への書き込みの完成など振り返りの時間に約 30 分を必要とする。

■ 担当教員からのメッセージ

授業前後の学修として、課題問題の解答や教科書の内容を読んで取り組んでください。また、日常生活で「薬」というキーワードを意識し、様々なメディアから見聞きする情報に触れる自己学習の機会を増やして下さい。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 8、miura★iwate-uhms.ac.jp

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

医師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容